

# 理工系で働く女子に聞いてみました

EVENT\*REPORT

## RIKEI BLOSSOMが開催されました！

未来の理系の女性を社会や企業が後押しする——その取り組みとして、8月27日に三菱みらい育成財団主催、読売新聞社共催で高校の女子生徒のためのセミナー「理系 Blossom」がオンライン開催されました。三菱グループ各企業の先輩 25名と、サポート役として参加した理系で学ぶ少し先輩の女子大学生・大学院生 25名が、進路や仕事について約120人の参加生徒にアドバイス。女性が活躍する職場の生の情報に触れて、活発な質問も飛び出し、夢と可能性に向かって大輪の花が咲きました。

## 夢を紡ぎ、未来を織りなす理系の世界へようこそ！

三菱みらい育成財団 アドバイザーボード委員、東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授、日本学術会議会員

### 大島 まり(おおしま・まり)氏

液体や気体の流れを扱う流体工学の手法を使い、脳の血管内を流れる血液と循環器疾患(脳卒中など)の関係の解明に取り組む。東京大学生産技術研究所が行った啓蒙活動の一環として、中学・高校への「出前授業」に精力を注いだことも著名。



「理系＝数学と物理」。そんなイメージを持っている人も少なくありません。しかし、今の科学は「トランスサイエンス」、つまりあらゆる分野に横断する取り組みが必要とされています。なぜなら、地球温暖化やカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーなど、複雑化した世界で私たちが直面している問題は、科学だけで答えを出せるものではないからです。日本では文系と

されている分野にも、経済の株価予想にはファイナンシャルエンジニアリング、心理学にはコグニティブサイエンスという理系の素養が欠かせません。このように文系・理系の境界を横断した取り組みが、社会を変革する力となります。いくら素晴らしいAIでも、倫理性が欠如していれば問題です。こうした背景で、今、教育の現場では科学・技術・工学・芸術およびリベ

ラルアーツ・数学の頭文字を並べた「STEAM」という言葉が重要視されています。多様な分野に触れて興味や知識を有機的につなぎ、「新しい知」あるいは「社会的な価値」を創出するのです。

「理系＝数学・物理」という時代は過ぎ去りました。これからの未来を創るのはみなさん。みなさんの好奇心と探究心が、20年後、30年後の世界を変えていく。そう夢を抱いて進んでほしいと願っています。

丸の内の静嘉堂で三菱みらい育成財団 平野信行理事長と大島まりさんの対談が行われました。

詳しくはこちらから <https://www.mmfe.or.jp/special/00004/>



## Pick Up Interview

理系女子の現場

三菱地所レジデンス 建築マネジメント部 第一建築マネジメント室 第一グループ

### 高垣 若菜さん

未来の“まちづくり”を担う高垣さんは、小学生の時の『建築士になりたい』という夢を仕事に結びつけた。「暇さえあれば建物の展示場に行き、指人形の家を自分で作ったり。それを今は実寸でやっています(笑)」とはいえ、昔のように一人でできるわけじゃない。「設計者、施工者、現場の方々など、さまざまな人と関わります。私は、着工してからも現場を見に行くのですが、教科書に書いていないことがたくさんあ



て面白い。プロジェクトの男女比は半々で、男性が多くて困ったという経験はないです。知識やロジックが説得力を持つ世界なので、女性だからと尻込みする必要はまったくくないです」今はテレワーク対応の間取りに取り組む。「これで社内のMVP(表彰)を取りたい」と夢は膨らむばかりだ。

三菱ケミカル Science&Innovation Center

### 阿部 由衣奈さん

炭素材料に代わる新たな素材の研究に取り組む阿部さんが、理系に進んだきっかけは「水」。「おばあちゃんの家から見る瀬戸内海がすごくきれいで、『東京の海もこれくらいきれいになればいいの』と思ったのが入り口です。高校の時、化学の先生が素敵な女性で、気になったことはすぐ質問していました」大学の研究室で、今の仕事の方向へと舵を切った。「水より素材の方が自分に合っているとわかって。興味のある方向に試行錯誤できるのが理系の醍醐味ですよ。答えがあ



るわけじゃないけど、『これをやったら面白いかも』を本気でやって、形にする。それが、仕事です(笑)。勉強は大学でも会社でもいくらでもできるので、チャレンジする気持ちがあれば、理系はやりがいだらけだと思います」

三菱UFJフィナンシャル・グループ リスク統括部 市場リスク管理室

### 瀬川 紗帆さん

理系 Blossom では、「なぜ理系から銀行に？」との質問があったという瀬川さん。「私は『これがやりたい!』と決めるよりも、興味のあることをやっているうちに面白さに気づく感じが好きで。理系の学部は細分化されたイメージがあるかもしれませんが、意外と入学後に自由に道を選べるんです」大学時代、部活を通じて人と人との繋がりに興味を持ち、大学院に進学せず銀行へ。「最初は法人営業でしたが、自分の強みを発揮できればと、データを扱う部署



に異動しました。金融の専門知識ゼロでしたが、知らなかったことを『わかったかも!』と思える瞬間が一番嬉しい。そんなところもリケジョっぴきです(笑)。理系＝研究だけじゃない。頑張ったことは必ず返ってくるから、自分に素直であればいいと思います」

東京海上日動火災保険 IT企画部 企画グループ

### 上屋 佳子さん

DXが進む中、IT分野でも理系の女性が活躍中だ。「研究職以外の道にも魅力を感じて大学院には進まず就職活動をしたのですが、折角だから理系で学んだことを生かしたいとIT部門を希望しました。AIを導入したシステム開発にも関わり、今、全国の職場で使われています。同期に『私が作ったんだよ』と言うと驚かれます(笑)」プロジェクトには多くの人に関わるため、「言葉」も大切だと語る上屋さん。「いかに論理的に言葉を紡いで納得してもらおうか。“伝える力”が大切なので、理系と文系の両方の力が求められると



思います。職場には文系出身のエンジニアも多く、その意味でも、文系・理系という分類にこだわらず、進路は自由でいいと思います」理系の女性の選択肢も多様化している。まずは自分の可能性を、目いっぱい広げてみよう。

三菱商事 コンシューマー産業GCEOオフィス

### 野村 実広さん

現在、一年間の予定でオランダのエネルギー企業にて研修中の野村さん。「入社以来、リテール、流通、デジタルと担当領域が変わり、現在は電力のトレーディング業務に携わっています。オランダを含む欧州諸国は環境への意識が高く、学生時代に環境科学を軸に研究してきた自分には、とても刺激になります。様々な産業との接点を持つ三菱商事の強みを生かし、持続可能な社会構築に貢献できることにも大きなやりがいを感じています」大学は日本の学部を卒業した後、海外の大学院へ進学。



「海外では、理系でも男女比はほぼ等しいです。自分の興味がぐくまると、様々な分野で活躍して欲しいと思います。私も、不確実性の高い時代だからこそ、変化をチャンスと捉え、楽しみながら試行錯誤を重ねることで、より良い社会への一端を担えたら嬉しいです」

## 理系バナ満開!

全国の高校の女子生徒が参加し、語り合った「RIKEI BLOSSOM」。花開いた様々な声の一部を紹介します。

「どんな職業につきたいかわからず、八方塞がりでしたが、学部も就職も、自分に興味があることをベースに考えれば良いと教えていただき、気が楽になりました」

「自分が何をしたいのかわからなくても、視野を広く持って、あれもある、これもあると考えても良いと教えていただきました」

「全国の皆さんが将来のことを語るのを聞いて、勉強のモチベーションが上がりました。少人数のグループで色々と質問ができ、知れたかったことを聞けて、貴重な体験となりました」

「意見交換の場で自分の意見を話すのはあまり得意ではないのですが、勇気を出して話せたことは今後の自信にもつながると感じています」

「このような大きなイベントで、発言するのは初めての経験でしたが、何を言ってもOKという雰囲気があり、とても良かった」

先輩に聞きまわりました!

「理系を選択した高校生が全国各地にいて、心強く感じました。理系を選択した女の子が色々な理系分野で働き始めたら、将来もっと面白くなっていきそうだなと思っています」

「初対面の人とたくさん関わり、4時間の中で自分の成長を少しですが、感じる事ができました」

「理系の友だちが多くはないのですが、理系の女子には横のつながりがあることを知り、今はわくわくしています」

「自分の夢と大きく関わっている仕事をしている人の話を聞けました。実際に理系の分野で活躍している女性の話というのはとても興味深く、たくさん質問をしましたが、一つ一つ丁寧に答えていただけました」

「研究職にはならなかったけれども、高校の理系の学びが、仕事に少なからず役に立っているというのを聞きました。理系は「極める」、「専門職」みたいな印象がありましたが、考え方がガラッと変わりました」

「企業で働く理系の方の話をはじめ聞いて、理系で働くのは研究所というイメージが変わりました」

「私の周りには理系に行く人が少なく不安でした。でも、女性だから仕事やりづらいということはないと聞いて、これからは自信をもって理系の道に進みたいと思いました」

## RIKEI BLOSSOMに参加して

自分自身が志した道を再認識するきっかけに

筑波大学大学院 井上 瑛子さん



積極的に発言する高校生の熱意がとても印象に残りました。同時に高校生から寄せられた疑問、例えばどうしてその進路を選んだのかといった問いは、私が高校時代に感じていたものと同じだったので、改めて自分自身が志した道について再認識

するきっかけになりました。私はいま、小学生の頃からの夢を叶え、大学院でバイオ燃料の原料となる微細藻類を低コストで大量に培養する研究を行っています。得られた知見を生かし、将来はエネルギー供給問題に貢献していきたいと考えています。

受け身にならず色々なチャレンジして

東京工業大学大学院 榎本 晴日さん



キャリアパスとなる先達がいなかったことが理系を選ぶ女子が少ない理由かなと感じています。その意味で、高校生にとっても、私にとっても、社会人の先輩と触れる機会があったことはとても有意義でした。今回、高校生には、興味関心があれば一

歩飛び出して、やってみようということをお伝えしました。私は大学院で系外惑星の研究をしています。大学3年の夏休みに国立天文台で研究をする機会を得たことがきっかけになっています。受け身にならず色々なチャレンジしてもらえればと思います。